

コロナ禍の差別、偏見をなくす「シトラスリボンプロジェクト」

自民党富山県連女性部から富山県看護連盟へ「シトラスリボン」贈呈される

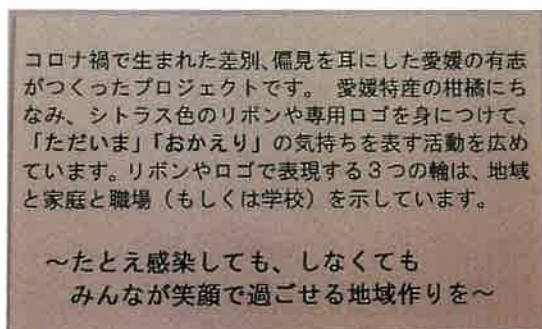
期 日 2021年6月28日(月) 午後2時～
場 所 富山県看護研修センター

コロナ禍で生まれた差別、偏見をなくす「シトラスリボンプロジェクト」の取組みとして、自民党県連女性部から、水引のひもで作った「シトラスリボン」を県看護連盟へたくさん贈呈いただきました。これには、～たとえ感染しても、しなくても みんなが笑顔で過ごせる地域作りを～と謳っています。リボンやロゴで表現する3つの輪は、地域と家庭と職場（もしくは学校）を示しています。

贈呈された「シトラスリボン」は、県看護連盟から新型コロナウイルス感染症の感染症指定医療機関をはじめ県内の医療機関へお届けしました。暖かい応援にたいへん感謝されました。上記のことが、新聞に掲載されました。



愛媛特産の柑橘にちなみシトラス色のリボン



自民党女性部 堀田部長から、県看護連盟へ贈呈

令和3年6月29日(火)

富山新聞掲載



差別をなくしたい
県看護連にリボン
自民県連女性部贈呈

自民党県連女性部は28日、コロナ禍の差別や偏見をなくす「シトラスリボンプロジェクト」の取り組みのひもで作ったリボン11写真600個を贈呈した。連盟は感染者の対応に当たる医療機関の看護師らに配る。

リボンは4センチほどの大きさで、地域と家庭、職場を意味する三つの輪がある。女性部の約30人が柑橘類をイメージした黄色や緑などのひも3本を組み合わせ、金具を取り付けてストラップにした。

堀田紀子部長、鹿野碩子副部長、濱木慶子組織委員長が富山市の県看護研修センターを訪れ、連盟の大上戸悦子副会長と後谷弘美幹事長にリボンを手渡した。堀田部長は「コロナ禍で働く人や家族への誹謗中傷があった。差別や偏見をなく

リボンを手渡す堀田部長(左から2人目)
—富山市の県看護研修センター

す意識を広げたいと話し、大上戸副会長は「応援されていると実感でき、働く力になる」と感謝した。

令和3年6月29日(火)

北日本新聞掲載



■差別の意識なくそう 自民党県連女性部(堀田紀子部長)は、感染者や医療従事者への差別や偏見に反対する意思を示す「シトラスリボン」を作り、28日に県看護連盟(三谷順子会長)に贈った11写真。感染症指定医療機関の看護師らに身に着けてもらうなどして活用してもらう。

シトラスリボンは愛媛県から全国に広がった取り組み。県連女性部はこの春、約30人で600個作った。かんきつをイメージした緑や黄、青色のひもを組み合わせた。

富山市鶴島の同連盟で贈呈式があり、堀田部長は「誹謗(ひぼう)中傷が起らない社会になってほしい」と話し、受け取った大上戸悦子副会長が「皆さんの思いを現場に伝えたい」と感謝した。